卒業研究発表　パワーポイント集

＊　大学生の意識調査から考える生殖医療の未来

＊　高校生の家族構成とジェンダー意識の関係について

＊　服飾におけるユニセックス化
　　～なぜ、男性が女性ファッションを取り入れるのか～

＊　性教育における他職種連携の現状と課題

＊　ディズニープリンセスにみる女性像の変化

大学生の意識調査から考える生殖医療の未来

教育学研究室　安東美幸

目的

・配偶者を持たずに子どもだけが欲しい女性
　→インターネットを介して個人的に精子提供を受け実際に出産
・精子提供をしている男性の考え
　→自分の遺伝子を多く残したい、困っている人の役に立ちたいという思いで行っていることが多く、産まれてきた子どものことを考えていない

何故このような形で出産する女性やボランティア感覚で精子提供をする男性が増えているのか、また今後どうなっていくのかを大学生の意識調査を通し考察することを目的とした。

方法

・関連資料および文献収集と検討
・大学生を対象とした質問紙調査
　212名実施(男性84名、女性125名、その他3名)

日本の現況

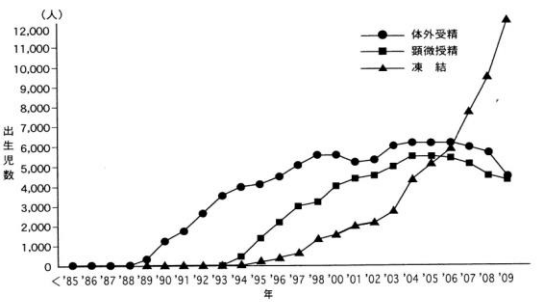


図 1　生殖補助医療による出生児数
(日本産科婦人科学会，2010による)

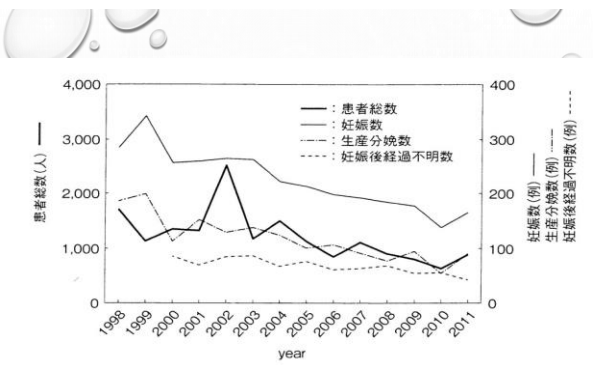


図 1　非配偶者間人工授精(AID)実施状況の年次推移
実施施設から日本産科婦人科学会への報告による，各年における AID の患者総数，妊娠成立数，生産分娩数，妊娠後経過不明例の数を示す(日本産科婦人科学会ホームページ[27]に公表された各年次の数をもとに作図)．

AIDの告知

2003年

「告知したい」
　父親:2.8%　　母親:4.7%
「告知しない」
　父親:81.7%　　母親:81.4%

2011年

半数の夫婦 → 告知する

精子提供の実態

- 精子提供を受ける理由
  同性カップルにおいての妊娠の助っ人探し
- 受け渡し方
  カフェ等で会いトイレで採取

ドナーになる側の心理

「私の遺伝子をばらまいて劣性生殖の流れを止め、未来の社会を助けたい」
「自分の身内がこの世に生きていると思えるのが良い」

受ける側の心理

精子バンクでは高額な費用がかかる
大半の施設では身元を明らかにしていない

子どもの心理

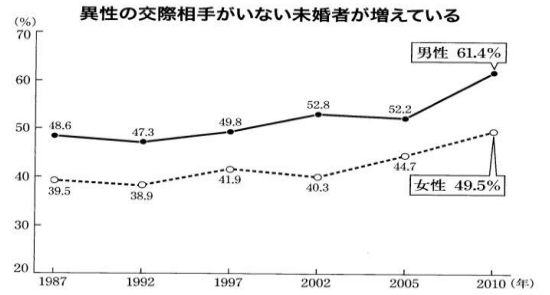
「半分養子の気分」
「あらゆる男性に自分の父親である可能性があると思うと辛い」

精子提供の無償提供市場の問題点

- ドナーが親権を求めて訴訟を起こすかもしれない
- 性感染症を隠しているかもしれない
- 公衆衛生の脅威になる可能性
- どんな男性がドナーになるのか

1.異性の交際相手がいない未婚者の増加

図２　異性の交際相手を持たない未婚者の割合



出典：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（2010年）」より

2.未婚(非婚)のシングルマザーの増加

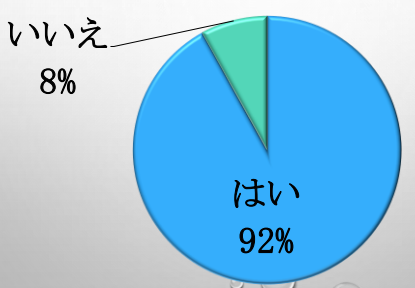
2010年　13万2000人
(2005年と比較して48.2%増)

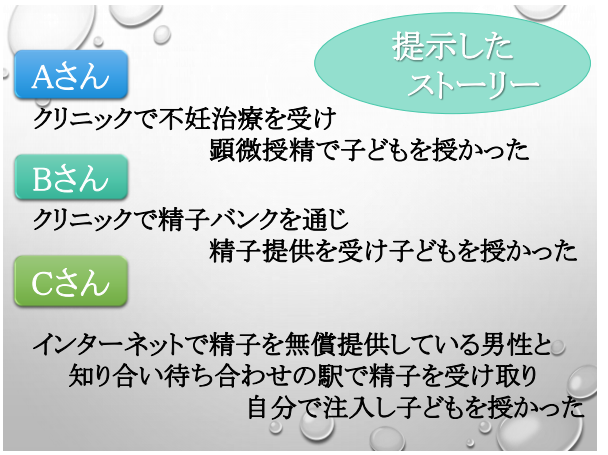
3. 同性カップルのニーズ

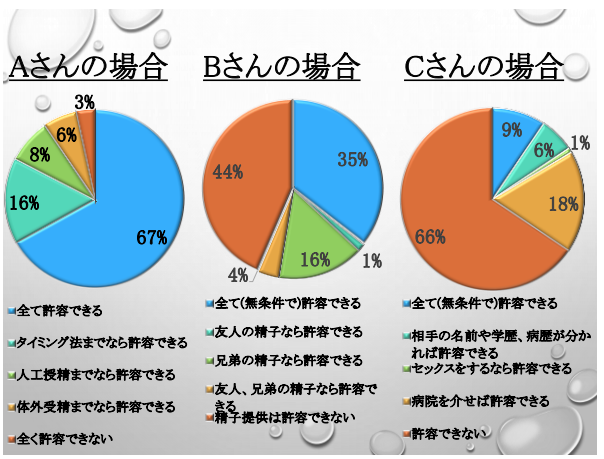
養子縁組
精子バンク
} 制限がある

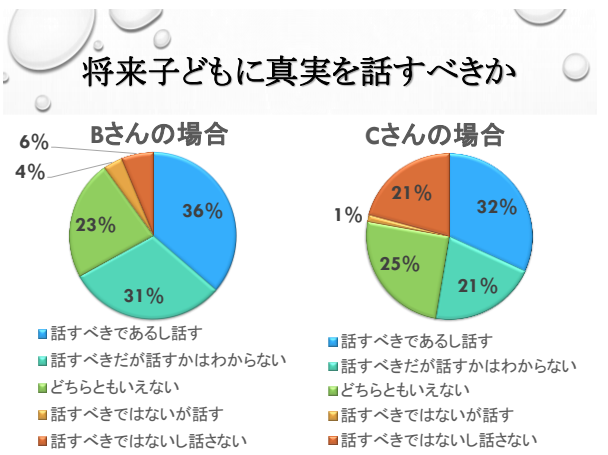
結果

あなたは不妊治療という言葉を知っていますか









Bさん

話す
「子どものため」(65人)
「隠せないから」(28人)

話すかはわからない・どちらともいえない
「子どものため」(59人)
「家族関係維持のため」(33人)

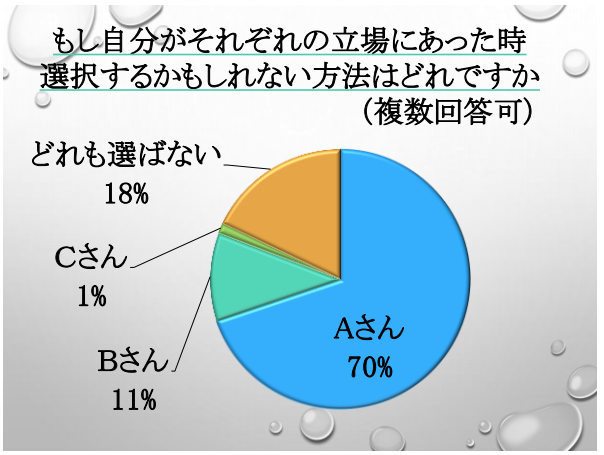
話さない
「子どものため」(7人)
「家族関係維持のため」(7人)

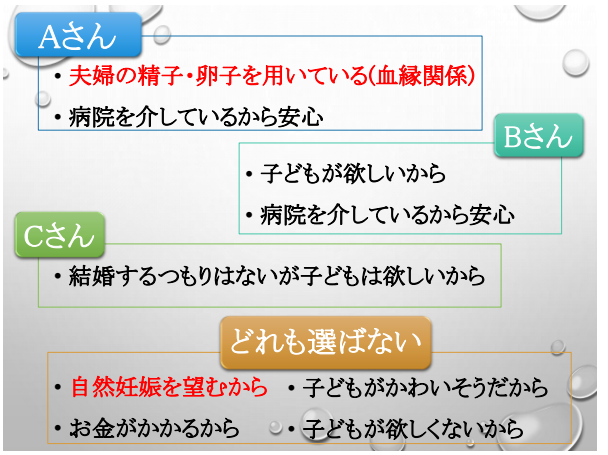
Cさん

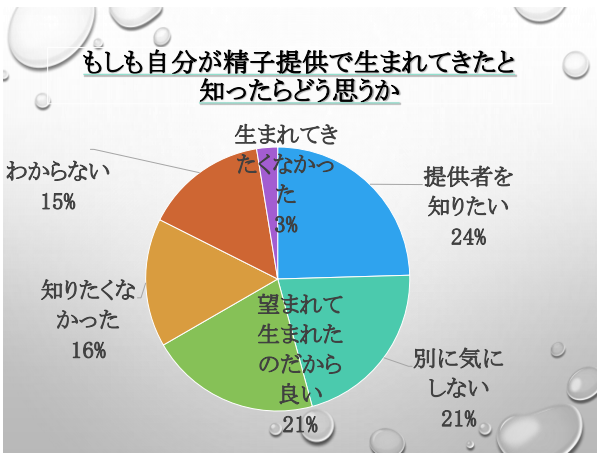
話す
「子どものため」(65人)
「隠せないから」(19人)

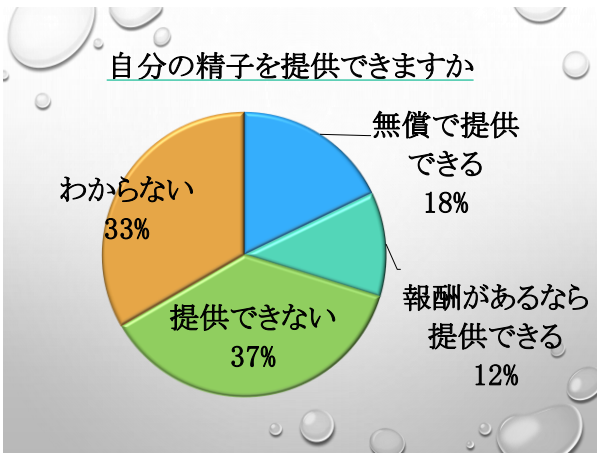
話すかはわからない・どちらともいえない
「子どものため」(52人)
「聞かれたら話す」(30人)

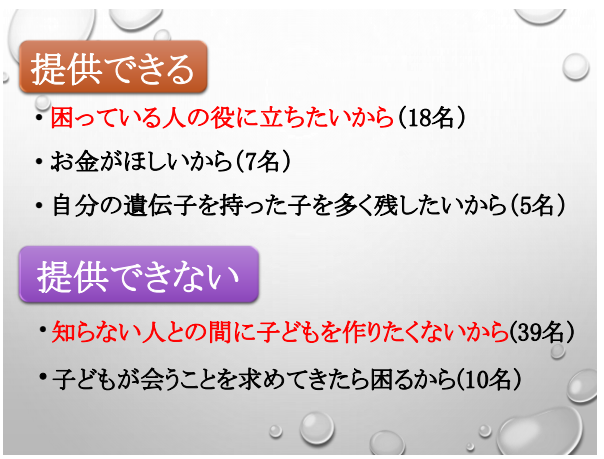
話さない
「子どものため」(35人)
「家族関係維持のため」(13人)

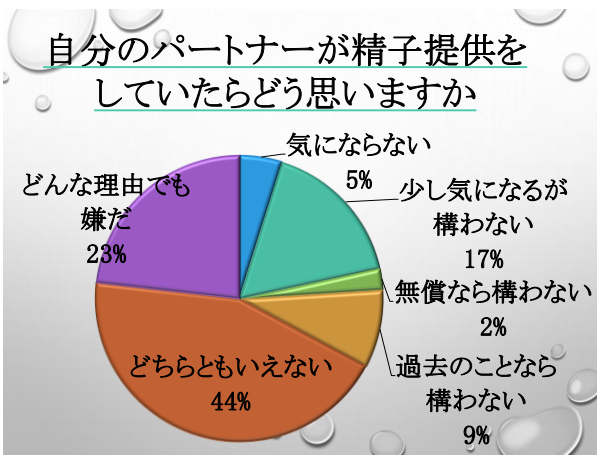

もし自分がそれぞれの立場にあった時
選択するかもしれない方法はどれですか
（複数回答可）
どれも選ばない
18%
Cさん
1%
Bさん
11%
Aさん
70%


Aさん
・夫婦の精子・卵子を用いている(血縁関係)
・病院を介しているから安心
Bさん
・子どもが欲しいから
・病院を介しているから安心
Cさん
・結婚するつもりはないが子どもは欲しいから
どれも選ばない
・自然妊娠を望むから
・子どもがかわいそうだから
・お金がかかるから
・子どもが欲しくないから


もしも自分が精子提供で生まれてきたと
知ったらどう思うか
生まれてきたくなかった
3%
提供者を知りたい
24%
別に気にしない
21%
望まれて生まれたのだから良い
21%
知りたくなかった
16%
わからない
15%


自分の精子を提供できますか
無償で提供できる
18%
報酬があるなら提供できる
12%
提供できない
37%
わからない
33%


提供できる
・困っている人の役に立ちたいから(18名)
・お金がほしいから(7名)
・自分の遺伝子を持った子を多く残したいから(5名)
提供できない
・知らない人との間に子どもを作りたくないから(39名)
・子どもが会うことを求めてきたら困るから(10名)


自分のパートナーが精子提供を
していたらどう思いますか
気にならない
5%
少し気になるが構わない
17%
無償なら構わない
2%
過去のことなら構わない
9%
どちらともいえない
44%
どんな理由でも嫌だ
23%

構わない・どちらともいえない

- 人の役に立っているから(44名)
- 自分には関係ないから(7名)
- 報酬を受けとっていないから(3名)

どんな理由でも嫌だ・どちらともいえない

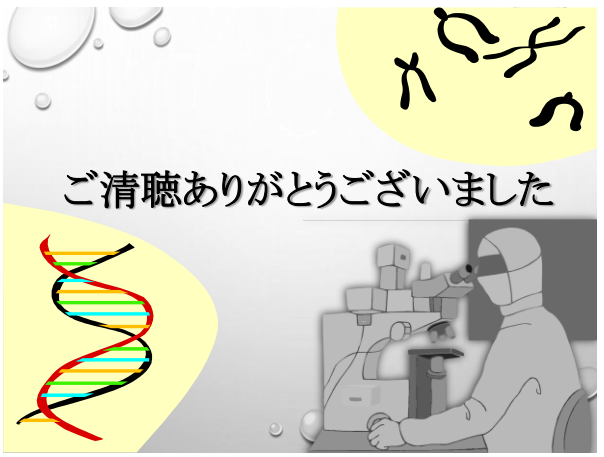
- 知らない人との間に子どもがいるかもしれないから(67名)
- 人の役に立っているから(13名)

考察

- 不妊治療を行うにあたって夫婦の精子・卵子を用いるか否かについて重要だと感じている人が多い
- 精子提供を行うことは人の役に立っているという考えがある

これらのことから

- 今後の生殖医療は発展していくが精子提供に関しては規制がかかるのではないか
- 物のやり取りのように精子提供を行う人が今以上に増加していくと自分の親を知ることのできない人たちが存在する今と全く異なった社会になる危険性がある



高校生の家族構成とジェンダー意識の関係について

教育学研究室
岩田あゆむ　大塚友莉子　唐鎌紗絵

目的

◎世界ジェンダー格差指数で、日本は135カ国中98位と著しく低い。
→政治による具体的な取り組みが進んでいない、ジェンダー平等意識が未だ浸透していないため

ジェンダー意識の形成には、家庭や地域の文化や規範が関わっているのではないか？

方法

1）関連資料および文献の収集と検討
2）高校生を対象とした質問紙調査

第1章 ジェンダーについて

ジェンダーの定義

①性別そのもの ②自分の性別が何かという意識 （ジェンダー・アイデンティティ、性自認） ③社会的につくられた男女差 （ジェンダー差、性差） ④社会的につくられた男女別の役割 （ジェンダー役割、性役割） 『知らないと恥ずかしいジェンダー入門』 著　加藤秀一	①身体的性別 ②性自認 ③セクシュアリティ ④性役割 『ジェンダーの社会学入門』 著　江原由美子

様々な意味に解釈されるからこそ、意見の食い違いが起こる。一般的には性や性別にかかわる現象において、何らかの意味で「社会的」なものが関係する場合を**ジェンダー**と呼んでいる。

ジェンダー概念の登場

19世紀末～20世紀はじめ：ジグムント・フロイト

「人間はただ放っておけば自動的に男や女になるわけではなく、そこには人間だけが持つ文化・社会という不可思議な環境の力が作用している」

1949年：シモーヌ・ド・ボーヴォワール

「人は女に生まれない。女になるのだ」「人間の主体は男であり、女は男から見た客体、つまり他者である」

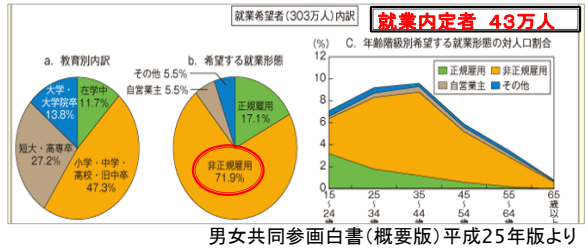
1950年代半ば：ジョン・マネー

ジェンダーという概念を登場させる。

「人は生まれた時点ではジェンダー的に中性であり、生後に男あるいは女としてのアイデンティティを身につける。そしてそれを決めるのは遺伝子やホルモンなどの生物学的要因でも、親の育て方といった環境要因でもない。重要なのは性器の見かけであり、男性器を持っている子は男性的に育ち、女性器を持っている子は女性的に育つのである」

現在の男女における雇用の差と家庭状況

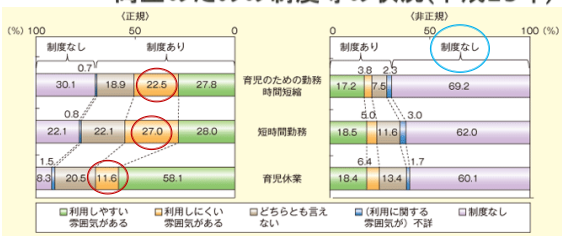
女性の就業希望者の内訳(平成24年)



男女共同参画白書（概要版）平成25年版より

就業を希望しているが、あきらめている。
就職活動をしていない。
「育児・家事」の負担を考えての選択があげられている。

妻の職場の仕事と子育ての両立のための制度等の状況(平成23年)



男女共同参画白書(概要版)平成25年版より

正規と非正規では、制度の有無が大きく異なっている。
しかし、正規でも利用しにくい雰囲気があるという意見がみられる。

第2章 家族形態の変化

「拡大家族から核家族へ」

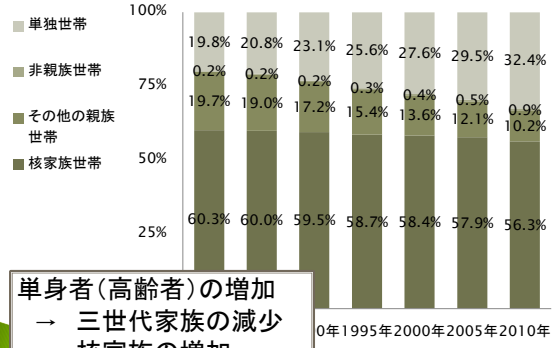
①核家族化

②片親家族の増加と離婚率

③夫婦の就労状況の変化

④母親の出産年齢の変化

①核家族化 類型別世帯構成割合の推移

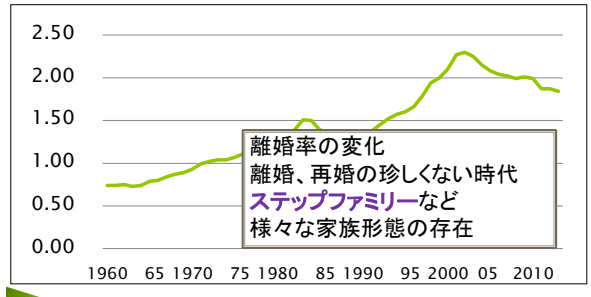


単身者(高齢者)の増加
→ 三世代家族の減少
→ 核家族の増加

総務省「国勢調査報告」より作成

②片親家族の増加と離婚率

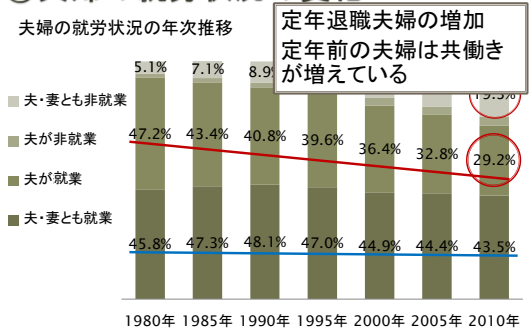
離婚率の推移(人口千人対)



厚生労働省「人口動態調査」より作成

③夫婦の就労状況の変化

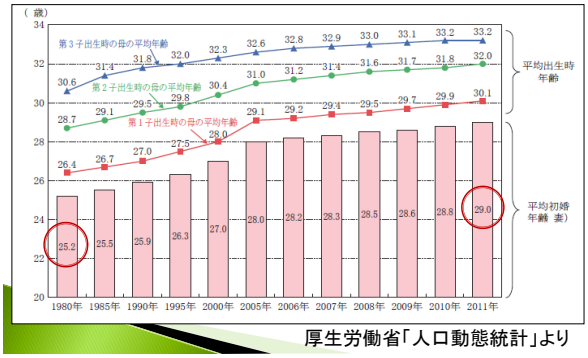
夫婦の就労状況の年次推移



総務省「国勢調査報告」より作成

④母親の出産年齢の変化

母親の出産年齢および、初婚年齢の年次推移



厚生労働省「人口動態統計」より

第3章 質問紙調査からの結果および考察

①質問紙調査の概要
②質問紙調査の結果および考察

①質問紙調査の概要

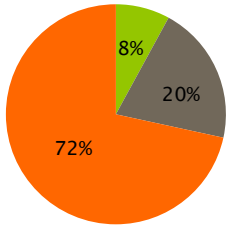
調査方法:質問紙調査
調査対象:高校2年生　100名程度

男子28名 女子57名 その他3名 ＜合計　88名＞	国立Ａ高校	男子	25名
		女子	36名
		その他	3名
	公立Ｂ高校	男子	3名
		女子	21名
		その他	0名

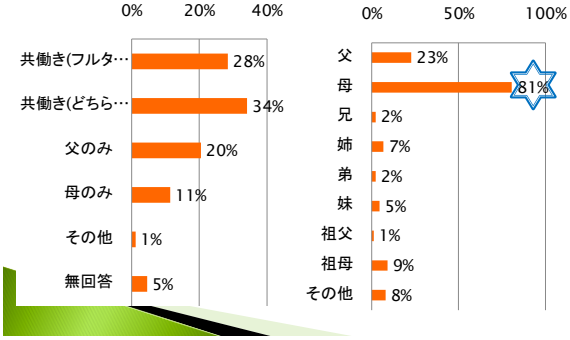
調査日時:2014年　10月～12月

②質問紙調査の結果および考察
結果1　対象者の属性

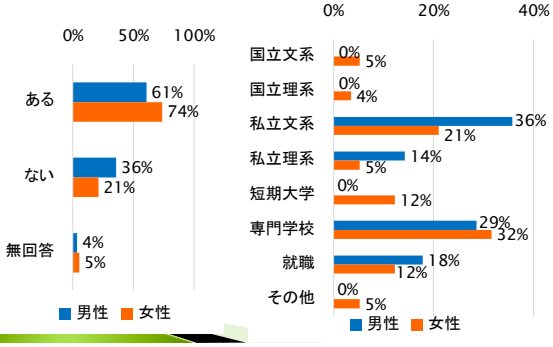
1-1　同居している両親構成



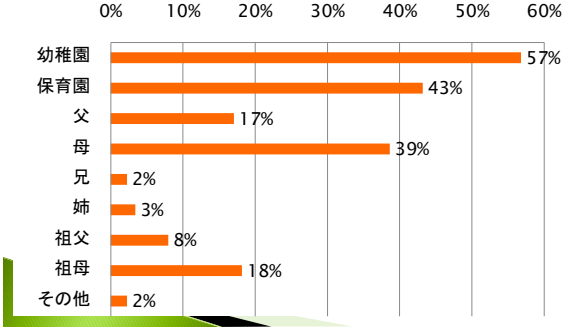
1-2　親の勤労状況
1-3　家庭で主に家事を行う人（複数回答）



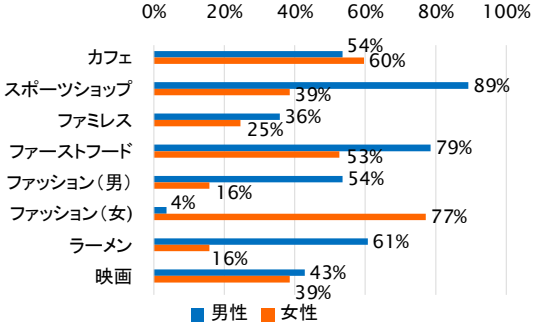
1-4　将来就きたい職業の有無
1-5　卒業後の進路希望



1-5　就学前の生活で世話をしてくれた人（複数回答）



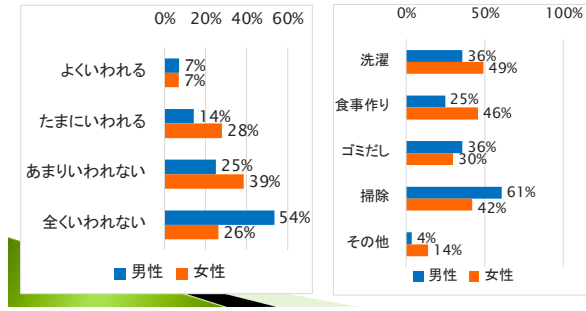
結果2　一人で入店できる店についての調査



結果3　家庭生活

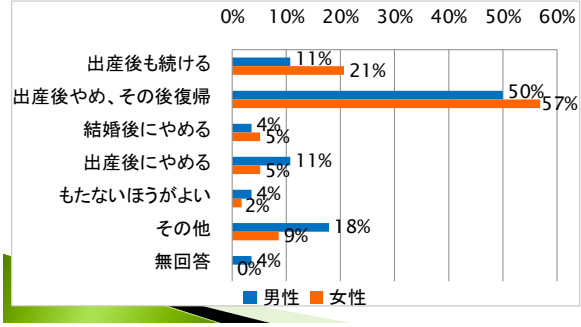
3-1「女(男)らしくしなさい」と言われる

3-2家庭で行う家事（複数回答）



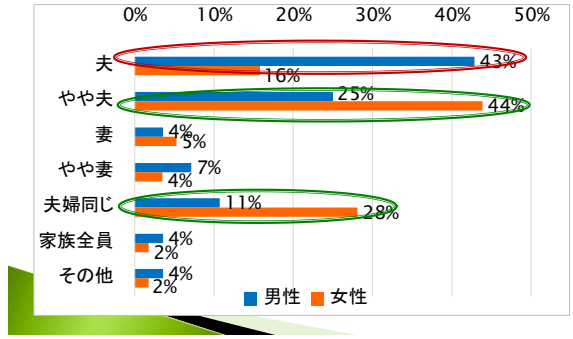
結果4：理想の夫婦像に関する調査

4-1 女性が職業を持つことをどう思うか



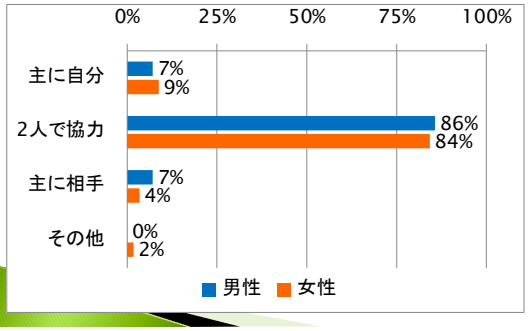
結果4：理想の夫婦像に関する調査

4-2 世帯収入の確保の役割は誰か



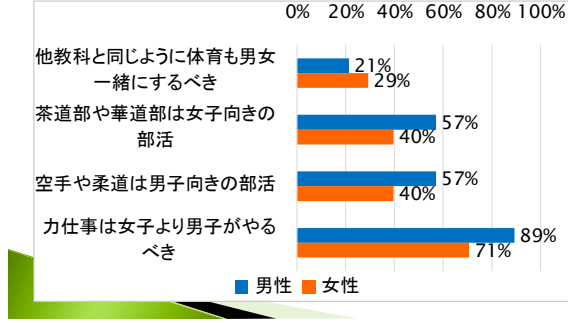
結果4：理想の夫婦像に関する調査

4-3 共働きにおいての家事分担



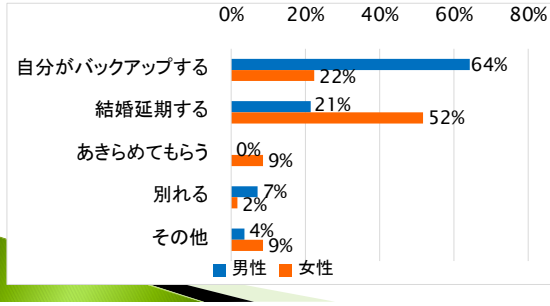
結果5：学業、仕事に関する意識調査

5-1 学校生活に関する質問



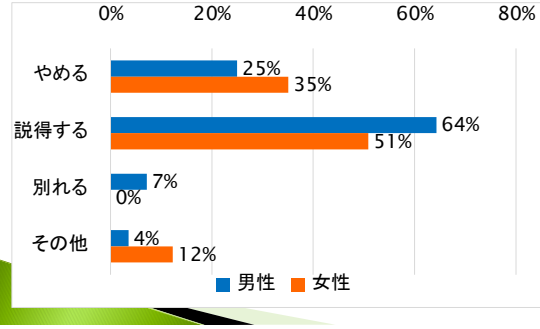
結果5：学業、仕事に関する意識調査

5-2 婚約者に仕事を辞めて専門学校に行きたいと言われたら



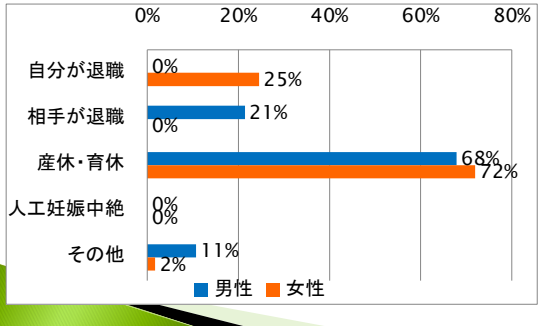
結果5：学業、仕事に関する意識調査

5-3 結婚後は仕事を辞めてほしいと言われたら



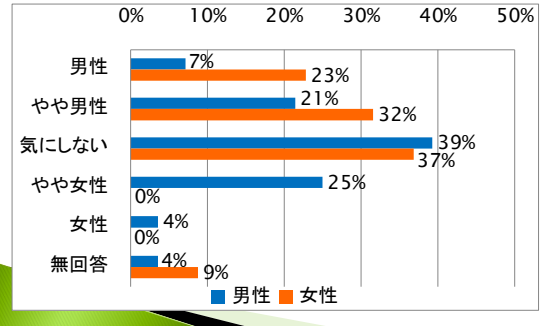
結果5：学業、仕事に関する意識調査

5-4 子どもができたときの仕事



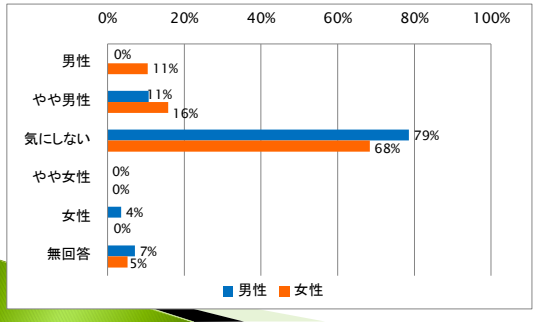
結果6：恋愛観について

6-1 年齢はどちらが高い方がよいか



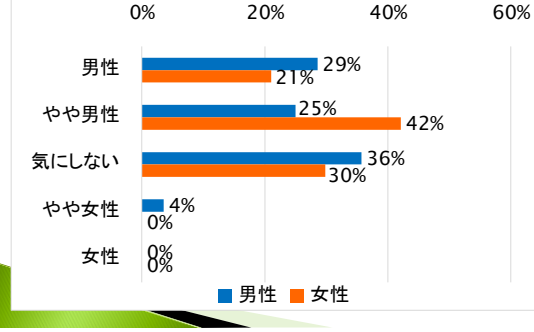
結果6：恋愛観について

6-2 学歴はどちらが高い方がよいか



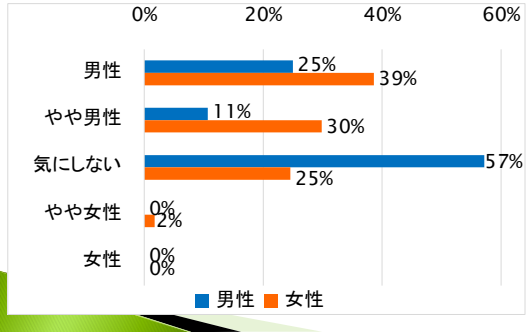
結果6：恋愛観について

6-3 経済力はどちらが高い方がよいか



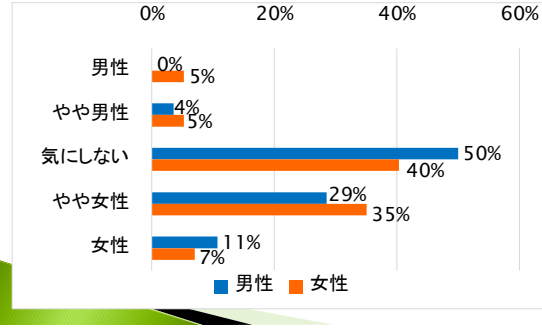
結果6：恋愛観について

6-4 身長はどちらが高い方がよいか



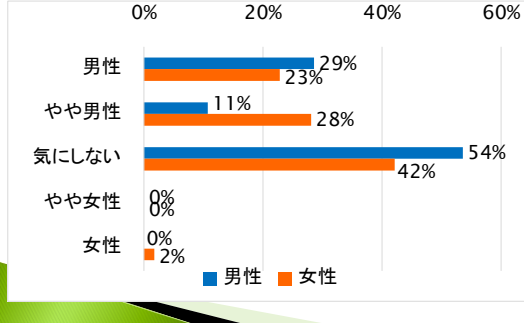
結果6：恋愛観について

6-5 家事能力はどちらが高い方がよいか



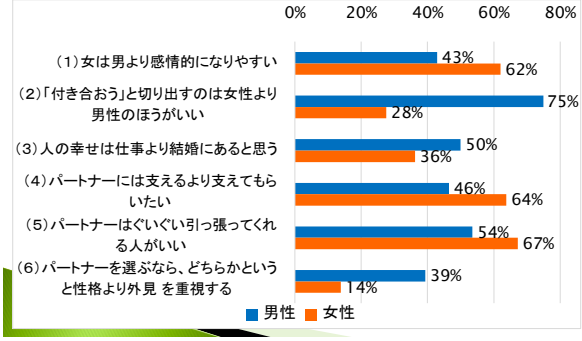
結果6：恋愛観について

6-6 運動能力はどちらが高い方がよいか



結果6：恋愛観について

6-7 恋愛に関する二択質問



まとめ

「男（女）らしくしなさい」と言われる人は少ない

||

家庭では直接的に

伝統的な「男（女）らしさ」を求められることがない

<u>共働きを仮定した場合</u>

・協力して家事をする

・産休、育休を利用し共働きを続ける

↓

男女平等に協力する社会を望む

まとめ

しかし

収入の確保や経済力は男性に、家事能力や育児は女性に求める傾向にある。

理由

①女性の非正規雇用が多い

②女性の方が家事労働時間が多い

③女性就業者の多い保育園、幼稚園の利用

・女性より収入がある男性に経済力を

・家事や育児は女性がやるものだという無意識のすり込み

本調査の限界と反省

ジェンダーという内容はデリケートなものであった。

||

・調査協力が得られた学校が少なかった。(2校88名)
・男女の人数の差が大きかった。
(男性28名、女性57名)
・3割の家庭が片親家族であった。

反省
・質問紙の内容が男女のカップルに限定、また男性、女性に限定されたものがあった

終わりに

社会で働く一員として
・自分たちの中にあるジェンダー・バイアスに気づく。
・自らが子どもたち一人ひとりの個性を尊重。
・多様性を認める。
・一人ひとりに平等に接すること。

身近にいる親や教師がその意識を強く持って関わっていくことが大切。

2014年度　服飾におけるユニセックス化　～なぜ、男性が女性ファッションを取り入れるのか～
（小島　梢）

服飾におけるユニセックス化
～なぜ、男性が女性ファッションを取り入れるのか～

保健栄養学科栄養科学専攻４年
1116026　小島　梢

研究動機

✿アルバイト先の男性がレディースファッションを取り入れていること
✿レディースファッションを取り入れることのメリット
✿理由としてはジェンダー意識か身体面か
　入手しやすさか

目的

服飾におけるユニセックス化の現状・意味を考える

✿なぜ、男性が女性ファッションを取り入れるのか。
✿女性ファッションを着る男性に共通した特徴があるのか。
✿社会的な認識の違いや思考に関して性差意識があるのか。

方法

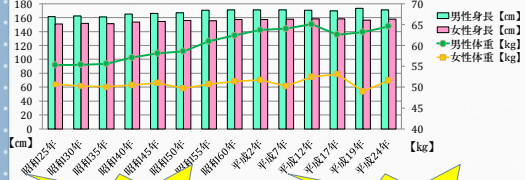
①関連文献・統計・雑誌（ファッション雑誌を含む）
　・インターネットによる情報収集

②ファッション雑誌の比較（女性誌・男性誌）

③半構造化面接法によるインタビュー調査
　✿女性ファッションを着用している、していない男性へ
　✿男性ファッションを着用している女性へ

結果（１）統計から

調査年度（20歳時）



男女の身長差に変化はない

ジェンダー規範意識が緩んでいる

参照：http://dontbother.navercorp.jp/2012/08/06.html
日本人の体格（平均身長・平均体重）についての公的調査資料より

結果（２）　雑誌比較から

男性ファッション誌	女性ファッション誌
✿小柄なモデルはいない	✿幅広いモデルがいる
✿女性ファッションを取り入れている特集などはない	✿男性ファッションを取り入れる特集が組まれている
✿服・紙面共に色彩が暗い	✿メイクなどの情報も多い
✿情報誌の数が少ない	✿内容の配色が豊か
	✿情報誌の数が多い

結果（３）　インタビューから

女性ものを着ている男性
→バラエティ豊か、ラインがきれいに見える、価格が安いなど

体型面・コスト面に重点

男性ものを着ている女性
→小柄に見える、幅が広いほうが動きやすい（ジャージなど）

考察

男性が女性ファッションを取り入れることに共通した特徴
　✿体型が比較的小柄
　✿がっしりとした体型ではなく細め
女性が男性ファッションを着る理由
　✿実用性や女性らしく小柄に見せたい雑誌から
　✿服を販売、広告する側が洋服を男性ファッションと女性ファッションに区別している。

→ ジェンダー規範にとらわれている

今後の課題

✿ファッション業界で働いている人への調査。

✿広告会社などへの調査

ご清聴ありがとうございました。

性教育における他職種連携の現状と課題

1410702　長谷川明子
1117003　五十嵐　汀
教育学研究室　　橋本紀子　教授

●目的

【研究背景】
・現代の若者の性に関するあらゆる問題から、性教育のより一層の充実が求められている
・学校における性教育は、学校の姿勢や教師の力量によって差があると考えられる
・多くの調査研究で、性教育発展のための手立てとして、他職種との連携が提案されている

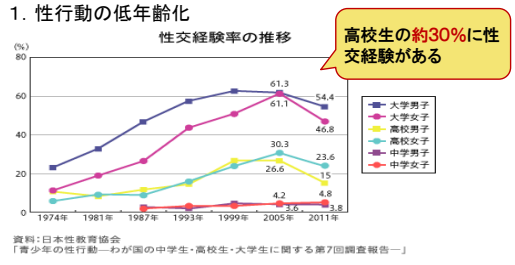
他職種との連携の視点から、学校における性教育のあり方・課題を考察する

●方法

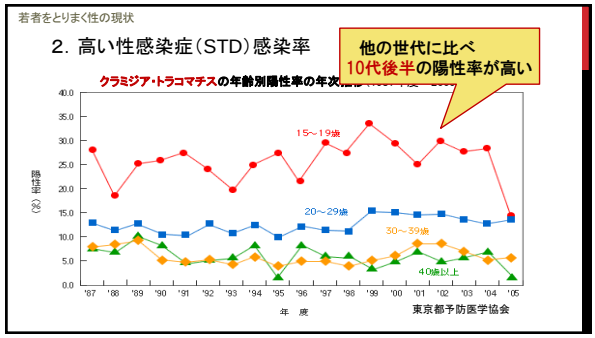
1. 関連資料および文献の収集と検討
2. インターネットによる情報収集
3. 養護教諭を対象としたインタビュー調査
4. 関係機関・団体からの情報収集

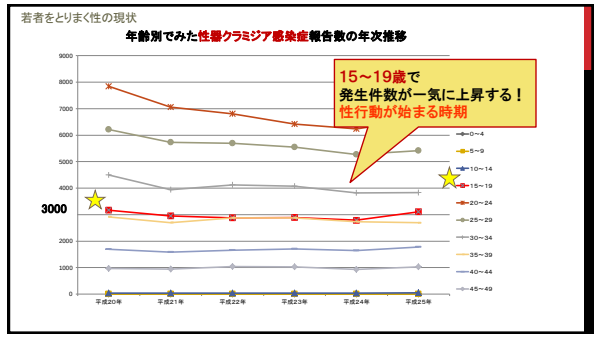
●若者をとりまく性の現状

1. 性行動の低年齢化



資料：日本性教育協会
「青少年の性行動―わが国の中学生・高校生・大学生に関する第7回調査報告―」



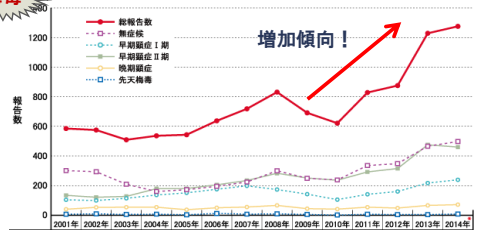


若者をとりまく性の現状

※最近注目されているSTD

梅毒

図1. 梅毒の年別・病型別報告数の推移（2001～2014年） 国立感染症研究所
（2014年10月1日現在）



若者をとりまく性の現状

3. 性意識・性行動の二極化

若者をとりまく性の現状

4. 性に関する知識の不足

性別・性情報源別にみた性知識正答率（高校生）

平均正答数は
半数以下！

性知識			勘外射精	排卵	男性生			
避妊情報源	学校	男子	68.2***	15.7	48.7			34.7
		女子	68.0***	40.6	15.1			
	友人・先輩	男子	62.1	13.1	45.6			38.8*
		女子	63.4		18.2***		52.1*	32.4
性交情報源	つきあっている相手	女子	71.8**		17.5		48.0	41.9*
	ポルノ雑誌・AV	男子	64.8	14.7	50.5	57.7***	46.7	56.5***
								40.4
								40.3*
								45.1*
								42.9**
								44.0***
	ネ							45.5***

無防備な性行動！

*は、カイ二乗検定で有意差に有意差率に有意差のみられた項目。
* p<.05, ** p<.01,*** p<.001
△は、性情報源とする者のほうが性情報源としない者より正答率の低かった項目。

●様々な職種による性教育の実践

1. 医療従事者
   - 医師
   - 助産師　など

- 予防教育への意識が高い
- 専門的な知識、データを持っている
- 支援のニーズをよく知っている

様々な職種による性教育の実践

2. 保健所
   - エイズ知ろう館（池袋）

- 「正しく知り」「考え」「行動」できるスペース
- HIV/AIDSに関する本、ビデオ、パンフレットなどを展示
- 年間6000人が来館（中学生が多い）
- ボランティア事業「ふぉーてぃー」も活動

様々な職種による性教育の実践

3. NPO法人

- HIV/AIDSやセクシャルマイノリティなど、様々な分野で活動する団体がある
- 学校教育へ積極的に協力している団体も多い
- 専門的、具体的な資料・教材がある

4. ピア（学生）

- 同年代の若者が、身近な立場から、性の知識を教え、悩みの相談役となる
- 高校生や大学生が活動

様々な職種による性教育の実践

5. 教育委員会による体制整備
・佐賀県の性教育

全国的にみて、10代の人工妊娠中絶率が高い！

➡ 性教育を充実させる

『性教育は、避妊や性感染症等の知識を与えるだけではない。
人間としてのあり方、生き方を教える教育である。』

佐賀県教育委員会HPより

様々な職種による性教育の実践

佐賀県の取り組み

① 豊かな人間性を育む教育の推進
② ふれあい道徳教育の実施
③ 学校における性教育の推進
④関係機関との連携
⑤ 思春期ふれあい体験事業
⑥ DV総合対策センター事業

佐賀大学、佐賀DV総合対策センター、市民社会組織（CSO）等と連携

・佐賀県医師会
・産婦人科医師会
・佐賀県看護協会
・NPO法人　ウィメンズサポートネットワーク
・佐賀エイズ研究会
・佐賀いのちを大切にする会

様々な職種による性教育の実践

●多様な人材が性教育活動を行っている
●人的資源には地域差がある
●学校側からの要請によって連携協力がはじまるケースが多い
※多くの団体や個人活動家は、学校教育への参入に困難を感じている
●教育委員会などで連携システムが整えられている例もある

●連携の現状と課題～インタビュー調査より～

◆インタビュー対象者の属性

	小学校	中学校	高校	中高一貫校
初任	1人	1人	2人	
4年目	2人	1人		1人
約20年以上		2人		1人

インタビュー調査：結果

◆連携先の比較

1年目	4年目	約20年以上
・産婦人科医 ・泌尿器科医	・妊婦（またはその夫） ・元教師	・産婦人科医　・泌尿器科医 ・保健所　・大学教授 ・NPO団体　・ピア（学生）

・学校の実態、性教育への意識によっても差がみられた。
・ほとんどが生徒向けの講演会での活用。
保護者向けは若干数あり。
職員研修で活用したいという希望は多くみられた。

経験年数の長い養護教諭は多様な連携先をもっている！（つながり）

インタビュー調査：結果

◆連携先の見つけ方で比較

1年目	4年目	約20年以上
・前年度からの引き継ぎ	・地域のネットワーク ・校内での協力者 ・研修	・大学関係者 ・他の養護教諭からの紹介 ・研究会

・初任に比べ、経験が長いほど校内での協力体制を作りやすく、地域の人材の情報が入ってくる。
・ベテランの養護教諭は、個人的な出会いの機会を積極的に掴み、校内での企画推進力がある。

他の養護教諭との情報交換はどの養護教諭も行っている
欠かせない！！

インタビュー調査：結果

◆校種別の特徴

連携する相手

身近

小学校	・生命誕生 ・かけがえのない命	助産師、妊婦（赤ちゃん）
中学校	・心身の変化　・妊娠 ・性感染症　・HIV/AIDS ・相手を大切にする交際の仕方	医師、看護師、保健所 AIDS患者、NPO団体
高校	・妊娠/人工妊娠中絶 ・避妊　・性情報への対処 ・相手を大切にする交際の仕方	医師、看護師、学生ピア 大学教授、NPO団体

より専門的に…

インタビュー調査：結果

◆連携にあたって困難なこと

・予算がない
・打ち合わせに時間がかかる
・学校の実態/ニーズに沿った内容にする
・新しい取り組みを始めにくい（忙しい、準備に時間がかかる）
・連携先をあまり知らない
・継続していくこと

学校種・経験年数による差は見られなかった

共通の課題

●考察

文献研究より

性教育に関する数多くの連携先があることが解ったが、校外の団体・機関は学校教育への参画に困難感をもっているため、学校側でそれを活用できる校内体制を整えることが求められる。（学校へのハードルを下げる）

考察

インタビュー調査より

・性教育を系統的・計画的に行うことや、学校単位の組織間で連携できる体制を整えることが必要
・短い経験年数でも、前任者の遺産・養護教諭それぞれの性教育に対する意識によって充実した連携を行うことができる
・初任の養護教諭は性教育の実施に困難を感じ、連携にいたらないことが多い

→連携先にはどのようなものがあり、どんな活動をしているかを知る機会（研修、ガイド等）を増やす

●提言～今後の他職種連携に求められること～

養護教諭

・養護教諭間のネットワークを強化する
・保健学習への積極的参入
・移り変わる情報を常に更新し続ける
・定期的な学校の実態把握
・校内研修の企画

提言～今後の他職種連携に求められること～

学校

・性教育推進組織の設置
・性教育の年間計画の作成
・校内での共通理解、意識統一
→職員研修の充実

養護教諭だけでなく、学校全体で取り組む体制づくり

提言～今後の他職種連携に求められること～

行政

・性教育の内容を平準化
・校外連携のシステム化
　→連携先の斡旋
　→予算確保など

教員の能力による差を埋め
どの学校でも同じ教育内容を保障

●本研究の限界と今後の課題

・より多様な地域や年代、学校種の養護教諭へのインタビュー調査の継続

・NPO団体や医療関係者への取材

・保健体育科の教員への調査

・児童生徒を対象とした、他職種による性教育の有無からみた性知識に関する質問紙調査

ご清聴ありがとうございました

ディズニープリンセスにみる女性像の変化

保健栄養学科保健養護専攻
藤田恵美

課題意識

ディズニーアニメーションにおけるプリンセス・ストーリー

価値観を広める文化的目的　人種や階級に関わる政治的目的

社会に大きな影響を与え続けている

研究目的

性別・人種についての視点を中心に、作品が生まれた時代背景やジェンダー観、また作品が社会に与えた影響について明らかにする。

研究方法

①ディズニー・アニメーションのプリンセス・ストーリーの視聴と分析
『白雪姫』『シンデレラ』『眠れる森の美女』『リトル・マーメイド』
『美女と野獣』『アラジン』『ポカホンタス』『ムーラン』
『プリンセスと魔法のキス』『塔の上のラプンツェル』
『メリダとおそろしの森』

②関連資料及び文献の収集と検討

③インターネットを活用した情報収集

ディズニープリンセスの定義

ディズニープリンセスとは、ディズニー作品に登場するプリンセスのキャラクターの総称である。本研究では、米国ディズニー公式サイトでディズニープリンセスと認められている11人をディズニープリンセスとする。

公開年	作品名	名前
1937	白雪姫	白雪姫
1950	シンデレラ	シンデレラ
1959	眠れる森の美女	オーロラ姫
1989	リトル・マーメイド	アリエル
1991	美女と野獣	ベル
1992	アラジン	ジャスミン
1995	ポカホンタス	ポカホンタス
1998	ムーラン	ファ・ムーラン
2009	プリンセスと魔法のキス	ティアナ
2010	塔の上のラプンツェル	ラプンツェル
2012	メリダとおそろしの森	メリダ

ディズニープリンセスの生まれ

プリンセス	プリンセスの生まれ	恋人	恋人の生まれ
白雪姫	王女	プリンス	王子
シンデレラ	非王女（一般人）	チャーミング	王子
オーロラ姫	王女	フィリップ	王子
アリエル	王女	エリック	王子
ベル	非王女（一般人）	野獣	王子
ジャスミン	王女	アラジン	非王子（泥棒）
ポカホンタス	首長の娘	ジョン・スミス	非王子（冒険家）
ファ・ムーラン	非王女（一般人）	リー・シャン	非王子（隊長）
ティアナ	非王女（一般人）	ナヴィーン	王子
ラプンツェル	王女	フリン・ライダー	非王子（泥棒）
メリダ	王女		

白雪姫

【時代背景】
・当時のアメリカは、世界恐慌と独裁主義の台頭という脅威にさらされていた。
【ジェンダー観】
・白雪姫と小人たちの暮らしでは、白雪姫が主婦の役割を果たし、その代わりに小人たちに養われる。性的役割分業が目立つ。
・男性側スタッフの女性観を引きずっている。ディズニー・プロダクションズの制作現場の実状とも関係があった。

シンデレラ

【時代背景】
・第二次世界大戦が終わって5年目。女性は、第二次世界大戦中に、自分で働き生活を支えるという経験をした。
・女性にとって結婚難の状況になり、結婚へのプレッシャーや結婚願望が高まった。
【ジェンダー観】
・シンデレラは王子に選ばれ、結婚することによって高い地位と富を得ることになる。「結婚＝女性の幸せ・人生の成功」という印象を受ける。

オーロラ姫

【時代背景】
・男性はヨーロッパ先進諸国や日本などを相手にビジネス争い、女性は平均出産率が3.5もあり家事と子育てで多忙。
【ジェンダー観】
・オーロラ姫の特徴は、無為性と受動性。自分は何もせずにいても、全てが手に入ることになっている。
・女性にとって幸せとは自ら掴むものでなく、男性に与えられるものであるという認識があったと考えられる。

アリエル

【時代背景】
・1990年代は、女性は男性に養われ庇護される存在ではなく、自立し自ら運命を切り開くべきだと考えられていた。
【ジェンダー観】
・アリエルは、能動的な性格。人魚の王女でありながら人間の王子に恋をし、積極的にアプローチする。
・アリエルが王子や人間社会へ惹かれる理由は上昇志向ではなく、知的好奇心の強さであると考えられるため、恋愛関係は対等である。男女平等が意識されている。

ベル

【時代背景】
・フェミニズムが意識されるようになってきたが、いまだに男尊女卑の考えを持つセクシストが存在していた。
【ジェンダー観】
・ベルは、恋愛に興味がない。ベルと無理に結婚しようとするガストンは、セクシストの女性観、男性観、結婚観を反映している。
・一目惚れではなく、恋愛に至るまでの具体的なプロセスがある。野獣とベルは互いに救い救われていたという点から、両性協力の印象が強く感じられる。

ジャスミン

【時代背景】
・世界的規模で国際化や多文化主義が進んでいた。
【ジェンダー観】
・女性が男性のいる世界へ憧れを抱くストーリーではなく、貧しい暮らしを送る青年のアラジンが王宮に憧れ、最終的に王女であるジャスミンと結ばれる。以前ありがちだったパターンとは、男女の立場が逆転している。両性の描かれ方に差がなくなってきた証。

ポカホンタス

【時代背景】
・異なる文化や人種を認め合おうとする社会。
【ジェンダー観】
・物語の終盤で、重傷を負い治療のために国に帰ることになったジョン・スミスは、ポカホンタスに「一緒に国に来てほしい」と頼むが、「離れていても、心はいつも一緒である」と言われ断わられる。結婚をしてハッピーエンドにならない初めての結末。愛の形は人それぞれであるということ、様々な生き方や人生選択があるということが伝わった。

ファ・ムーラン

【時代背景】
・1990年にクリントン政権が親中国政策を行った。
【ジェンダー観】
・高齢で足の悪い父の代わりに男装して軍隊に入ったムーランは、地道な努力によって周りから信頼されるようになり、戦いにおいても大活躍し英雄となった。男性の中で男性以上に活躍し、「男性は守る存在で、女性は守られる存在」という昔ながらの固定概念を覆すほどのパワーを感じた。

ティアナ

【時代背景】
・物語が公開された2009年に、アメリカ初の黒人大統領バラク・オバマが登場した。数十年前までは白人と黒人は区別され、黒人差別があった。現在はそのような差別は大分薄れてきている。
【ジェンダー観】
・ティアナは、貧しい家庭で育ち、自分のレストランを持つという夢を叶えるために懸命に働き、最終的には夢を実現させる。女性の社会進出が著しい現代、職業を持つティアナは共感しやすい存在。

ラプンツェル

【時代背景】
・「女性は男性に尽くし従うもの」という古い考え方ではありえなかった「男性が女性の尻に敷かれている状態」を見かけるのも少なくない。
【ジェンダー観】
・天真爛漫なラプンツェル、自分より身分の高い女性と結婚し王家を継ぐことになったフリン・ライダー、女性的と思われがちな夢や趣味を持つ酒場の荒くれ者たちなどの登場人物から、性別によって「男性らしさ」や「女性らしさ」を求めるのではなく、性別にとらわれない「自分らしさ」を大切にすることの重要性を読み取ることができる。

メリダ

【時代背景】
・家族の絆の大切さが重視される。
【ジェンダー観】
・メリダは、自由を愛する活発な王女。髪はボサボサでドレスを着ることもなく、物語の中で恋に落ちることも結婚することもない。
・「王家の娘らしく振る舞わない娘に悩む母エリノア王妃」と「王家の伝統に嫌気がさしている王女メリダ」の関係は、現代社会にありがちな「口うるさいほど熱心に教育をする母親」と「それに反抗する娘」を反映している。

全作品の比較

公開年	プリンセス	性格	舞台	容姿	結末
1937	白雪姫	受動的	ヨーロッパ	白肌、黒髪	結婚
1950	シンデレラ	受動的	ヨーロッパ	白肌、金髪	結婚
1959	オーロラ姫	受動的	ヨーロッパ	白肌、金髪	結婚
1989	アリエル	能動的	海の王国	白肌、赤髪	結婚
1991	ベル	能動的	ヨーロッパ	白肌、茶髪	結婚
1992	ジャスミン	能動的	砂漠の王国	褐色肌、黒髪	婚約を認められる
1995	ポカホンタス	能動的	アメリカ	褐色肌、黒髪	想い人と離れ離れに暮らすことになる
1998	ファ・ムーラン	能動的	中国	黄肌、黒髪	想い人が家を訪ねてくる
2009	ティアナ	能動的	アメリカ	黒肌、黒髪	結婚して、働く
2010	ラプンツェル	能動的	ヨーロッパ	白肌、金髪	結婚
2012	メリダ	能動的	スコットランド	白肌、赤髪	母と和解

作品が社会に与えた影響

共感することで安心感や癒しを得て、生きる喜びや楽しみになった。

その反面

「女性は女性らしく」「男性は男性らしく」といったジェンダー概念を広める要因となり、固定的な性役割の意識を植え付けた。

今後の課題と展望

今後もジェンダー観や人間観などの時代的課題を意識しつつ、より良い社会を構築するために貢献できるような作品の制作をしていくことが望ましいと考えられる。

ご清聴ありがとうございました。